



第43号
発行日 1月11日
発行所 真徳山 天林寺
発行者 伊藤文元
〒430-0905
静岡県浜松市中区下池川町27-1
TEL (053) 471-6226
FAX (053) 471-6234

人生百年の兆し



天林寺住職

伊藤文元

新年のご挨拶

令和二年、庚子かのとね仏忌二五八六年、西暦二〇二〇年の新年に当たり、檀信徒の皆様方のご健康とご多幸を心より祈念申し上げます。令和初めての新年をご家族で多くの夢と希望を持って迎えの事と存じます。

昨年も日本各地で地震・台風・豪雨・洪水等の自然災害により甚大な被害を受け多くの方々が亡くなられました。謹んで哀悼の意を表しますと共に、被害を受けられた皆様には衷心よりお見舞いを申し上げ一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

後期高齢者

さて私も昨年の誕生日をもって目出度く？後期高齢者の仲間入りをしました。前号の「微笑」に書きましたが運転免許証の更新をするのにも大変な思いをしました。これまで医者要らず、(医者嫌い)？で過ごして来ましたが最近健康保険証を使用する回数も増えました。かつて「人生五十年」と言われる時代がありました。

調べてみると、統計を取り始めた一九四七(昭和二十二年)、男性の寿命は50歳、女性は54歳でした。「人生五十年」で思いつ

すのが織田信長です。信長が幸若舞の「敦盛」の一節「人間五十年下天のうちにくらぶれば夢幻の如くなり」と出陣の前に歌い舞ったと言われております。因みに信長は本能寺の変で明智光秀に四十九歳で殺されています。余分なことですが今年の大河ドラマ「麒麟がくる」は明智光秀が主人公です…。

昭和・平成で大きく伸びる

では現実の日本人の平均寿命ですが男性は81歳、女性は87歳です。世界のトップは男女ともに香港で我が国は男性3位、女性2位：長寿大国です。ところが、日本人の寿命が昔からこの様に長かった訳では有りません。

江戸時代は 三十二〜四十四歳
安土桃山時代は 三十代

室町時代は 十五歳
鎌倉時代は 二十四歳

平安時代は 三十歳
飛鳥・奈良時代は 二十八〜三十三歳

古墳・弥生時代は 十〜二十歳
縄文・旧石器時代は 十五歳位、と遡るほど短命の傾向です。

明治・大正は 四十四歳、平均寿命が五十歳を超えたのは第二次世界大戦以後であり寿命が今の様に大きく延びたのは昭和・

平成になってからのようです。

益軒「養生訓」での予言

中国では高齢者に敬意を表し長寿を祝う思想が尊ばれました。儒教を広めた孔子の「論語」の次の言葉は有名ですね。

「子曰く、われ十有五にして学に志し、三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の命ずる所に従って矩を踰えず」

これまでの人生は教育・仕事・老後の三段階で二十年学び、四十年働き、二十年休む事でした。定年が五十五歳から六十歳、六十五歳へと変化をし、年金も六十歳から六十五歳、七十歳へと変わりつつあります。儒学者の貝原益軒は「養生訓」の中で「人の身は百年を以て期とす。上寿は百歳、中寿は八十歳、下寿は六十歳なり」と述べています。「人生百歳」の時代になろうとしています。生き甲斐のある人生を送る為に今から人生設計を考え直さねばと思う今日この頃であります。

本年も宜敷お願い致します。

しげこさん

天林寺寺族 伊藤 諦子

名前にも流行がありました。一時はキラキラネームも流行りました。私と同世代の女性はほとんど「子」が主流でした。

私の友だちに「しげこさん」は五人います。多いでしょう？それも魅力的な方ばかり。二人はお寺の奥様、三人は高校の同級生です。字は「茂子さん」三人。滋子さん、慈子さんです。名は体を表すとか、さて…。

寺女房ひとり目茂子さんは、私と同じ年。私と同じ東から嫁いできました。チャキ／＼の江戸っ子です。得度も旧本堂で一緒に受け、前住の寺も同じと縁が深く半世紀近くの仲良しです。次の茂子さんは流派違えど、茶事の師。月に一度の懐石の勉強を通して私を導いて下さった大切なお姉様。お茶の恩人です。

同級生のしげこさんは三人共豪傑揃い。女性の豪傑とはあきれます？が、皆規格外の女人です。私達は神奈川県立湘南高校出身、旧制男子校の少数の女丈夫でした。

茂子さんは頭脳明晰の家に生

まれ突出した頭の持ち主。東大医学部を出て、現在は「日本の膠原病の権威」と称されている由。当時もどんな数学の難問をぶつけてもスラ／＼と解いて下さいました。

滋子さんは結婚して後、山友達として親友。心底明るく太陽の様な笑顔。行動力バツグン！ご主人を送られてすぐご主人の故郷に転居。日本国内世界中飛び廻って自称「住所不定」と哄笑。慈子さんは早大を出て国費留学生として渡仏。大学教員を歴任でも経歴より彼女は高校生の時からゆるぎない・信念の持ち主で、当時から私の「人生の師」でした。現在米国在住。

姑の生前の口癖は「マ行と濁音の名の女性はきつい」でした。私はいつも「？」と思いましたが、きついを「強い」とか「しっかり」と変換すると納得です。確かに私の友人「しげこさん」達は、しっかり強く魅力的な方ばかり揃っています。

しげこさん！大好き♡

本山修行ご報告
さまざまな修行のかたち

天林寺徒弟 長谷川敏正

永平寺での二年目。「祠堂殿」という寮舎におりました。この寮舎は、一般のお参りに来られた方々の法要、あるいは永代供養を執り行うところ。永平寺に上山するまで、曹洞宗の法要の経験が全くなかった私にとっては、法要の基礎を学ぶことのできるありがたい寮舎への配属となりました。まだ覚えきっていません。まだ覚え、低く通る発声の工夫をしながらの読経。木魚の叩き方やペースを学び、磬子と呼ばれる大小の鐘の叩き方、叩くタイミングを覚えていきました。細かくは、各地、各お寺でのやり方・くせがあります。永平寺ではくせのないシンプルな形での法要を学びます。こんな拙い修行僧達の法要であっても、時にはお経を聴き故人のことを思い出されたのか、落涙されるお施主様もいらっしゃいます。上手、下手ももちろん大事ですが、まずはここを込めて一所懸命に行じることが一番大事なのだ、と思いました。

二年目の半ばでは、「傘松会」という寮舎に配属となりました。

ここは毎月発行される「傘松」という、機関誌を製作するところ。いろいろな執り行われる行持や会合などの取材と写真撮影。また、執筆をお願いしている先生方の原稿とあがってきた校正原稿のチェック等をしており、多くの行持を写真撮影します。法要を外から見ることで、法要を美しく、綺麗に行ずるためにはどうしたらいいか？気をつけ、考えるきっかけとなりました。また少しですがカメラの使い方も学びました。

二年目の後半になりますと、「後単行寮」へ配属となりました。ここは、後堂老師と単頭老師という二人の老師の行者をする寮舎です。後堂老師・単頭老師というのは、雲水達の修行生活の指導の責任者、先生、みたいな感じでしょうか？法要、食事、坐禅等々、多くの決められた作法に則って行われる修行生活を円滑に進めるための指導をして下さいます。行者はその老師お二人の身の回りの世話や、法要での補佐などを致します。

この様に、二年目はいろいろな寮舎に行かせていただき、これまで経験したことのない仕事？をいろいろさせていただきました。慣れるまで苦労したことも多々あり、周りには迷惑をかけましたが、新しい経験に出会えた楽しい二年目でした。





なぜ百八回撞くの？

まだ記憶に新しいかもしれないが、つい先だつては除夜の鐘を突いたり、聴いたり、各地の銘鐘の紹介などに触れたりした人も多い。ちなみに除夜とは「旧年を除く」意味で、「除夕」ともいうそう。

煩惱を消して新年を迎える行事として広く各地に伝わり、当山においても心を込めてお勤めさせていた。多くの方が参加され、突き終えてはそれぞれの夢と希望を抱きながら初春の一步を踏みだされたようだ。除夜の鐘は百八回打ち鳴らされる。ところが、地方によっては捨て鐘といって、二つ打たれることもあり、さらに昨今は深夜の参会者のために特別に許され撞かれることもあるようだ。

お手元の数珠の「珠」はいくつ？

仏さまを拝むとき用いる数珠は本来、称名（仏様の名を唱える）や陀羅尼（梵字の呪文）を唱えるときに、回数を記憶する

ため珠を用いたとされ、現在も僧侶が儀式用に使う数珠は百八個の珠である。時代を経て簡略化され、現在、私たちが普段使っている数珠は略式用で五四、三六、二七、一八などの公約数になっている。

さらに資料にあたると、大般若経には百八の「三昧」や密教においての百八尊の他、真言密教では数珠を擦りながら百八回の礼拝や真言を唱えるという。

百八の煩惱とは…？

子供心に「人間には迷い心があるからね」と聞かされていたが、長じて「煩惱」の言葉に出会い、だれもが我が身を持って余した時期もあつたらうと思う。いったい百八の煩惱とは？

仏教の世界だけでも諸国を経て我が国に伝わっている経緯から諸説あるようだが、その数え方はさまざまである。

誰もが持っている目、耳、鼻、舌、身、意の六つの感覚器官が色、声、香、味、触、法という六つの対象を把握するとき、好・悪・平（非好非悪）の三があり、一八となる。その一つ一つに染めと浄（きよい）の二つがあつて計三六となる。これにまた、それぞれ過去・現在・未来の三つがあつて、合計百八の煩惱…とするのが一般的

である。

別の考え方では六つの感覚器官に快感、と不快感とどちらでもない「捨」の三種の感じ方があつて、計十八、また、好・悪・平の三種があつて計十八、あわせて三十六となる。これに先述と同様、過去・現在・未来の三種があり、合計百八となる考え方もある。

また、中国などでは節氣と結び付け一年の十二か月、二十四節氣（立春、春分など）そして七十二候を合わせ百八とする説もあるようだが、除夜の鐘の場合、それぞれの煩惱を一つずつ鐘の音でさます、と言った方が私たちにはしっくりくるようだ。

しかし、インドでは…

「インドでは数が非常に多いことを表す」と著名な辞書にあるのを見つけた。（岩波仏教辞典）言葉尻に乗るわけではないが、百八の個々をどうのこうのよりも素直に、多くの煩惱…と解釈する方がわかりやすい。



仏教由来のことは

他生の縁（たししょうのえん）

現世を今生（こんじょう）と言うが、他生とはそれ以外の、前世の前身（ぜんぜん）、来世の後生（らいせい）のことを言う。

袖振り合うも他生の縁…と使われるが、ちょっとした人との交わりも、今生の偶然からでなく他生（前生や来生）の深い宿縁から…という仏教観に基づいている。しかし、この先の来生は今生に影響を及ぼせられないから、他生とは前世からの関わり合いを指している（仏教語源散策へ中村元編著・角川ソフィア文庫）と記されている。

また、「多生」とも併用されるが、多生の意味は、何度もこの世に生まれ変わることであり、出来れば避けたい。

道を歩いて袖が振れ合うことに着想する言葉であり、古くから旅の物語でも登場してくるが、近代になると、「袖すり合うも他生の縁」などの使い方も生まれ。関西ではいろはカルタに登場、若い男女のすれ違う挿し絵が波紋を呼び「縁」が男女の仲を暗示、堰を切るように一般化した。多用されたという。一方、同じ音の響きであるが「多少」は論外である。

微笑

「報告いたします」

山門施食会孟蘭盆会(七月十五日)
どこで生きていますか？

一時半、鉦の音と共に侍者ら
を従え井上貫道老師(掛川市少
林寺ご住職)が入堂、静まる堂
内。一呼吸おき、優しい声で、「皆
様はどこで生きておられます
か？」と自らの胸や頭を指しな
がら堂内に問う。

現実の出来事が、自らの思い
が入ってゆがめられないか？し
かし、事は事実として存在する
ので、直面する前から悩まない
ように…と自らの思いで招く煩
悶の無駄を諭される。

そして、「実践」することの大
切さを結びの言葉として残され
座を降りられた。

優しく語られる言葉だが、鋭
く心に響く、発想の違う考えに
「ああ…
そうなん
だ！」と納
得、笑顔に
戻った人
もいた。



井上貫道師

想い新たに…亡き人への供養

いつものとおり、新亡家(初盆
のお家)の受付は玄関先。総代さ
ま方が若い和尚さんの手助けを
受け、供物などをお預かりして
いる。

本堂ではご詠歌が流れ、新亡

家の皆さ
さんが指定
された席
へ陣取ら
れる。三連
休とあつ
て若い人
…、子供連
れも目立
つ。やがて、
往来する僧の姿も減り、ご詠歌
のリンの音だけが響く。時が来
て本堂の殿鐘が鳴らされると遠
方での鉦が応えつつ近づき、本
堂に至る…。



山門施食鬼会での祈り

個々に掌を合わせ、手向ける

導師の文元方丈が入堂。焼香、
五体投地の礼拝の後、案内の声
が飛び、居並ぶ僧侶にならない檀
信徒も掌を合わせ、三拝。法要に
入る。

献湯菓茶(本尊様に蜜湯、菓
子、茶をささげる)を終え、経題
に従って読経する。

続いてご詠歌の♪寝ても覚め
ても…が詠われ、精霊棚に対面
する位置に導師が移る。他の僧
侶もそれに従う。

「山門施食会に移ります」の案
内がかかり、ふたたび読経。続い
て導師は、檀信徒をはじめ三世
十方法界の万霊、そして東日本
大震災の犠牲者への供養を告げ
る。経を挟み、満を持して新仏の
戒名を奉読される。新亡家の身
内は読み上げをじっと聴き入る。

再び読経に戻り、案内の声によ
り新亡家のご家族から精霊棚に
向う。水を手向け、掌を合わせご
先祖さまに祈り、法要は終了し
た。

薄暮の中、精霊をお送りする

夕方七時、方丈さまはじめ僧
侶が山門前に出座、精霊送りの
法要が営まれた。折しも薄暮か
ら始まり、夜のとばりが降りる
頃に法要も終了した。

さわやか秋の彼岸会(九月二十日)

一時過ぎより、御詠歌の講中
が詠唱する中、三々五々檀信徒
様方が本堂に参集されていく。
鐘の音を合図にご近在の和尚
さま方が須弥壇の前に並列する。

やがて、鉦の音が呼応して響き、
導師の方丈が入堂される。目を
引く緋の衣をまとわれ真っ先に
焼香される。静寂の堂内、目を惹
く鮮やかさにさらに緊張は高ま
り空気が引き締まってきた。
法要は和尚様のご発声で参列
者一同が三拝することから始ま
る。例年の

ように、御
開山、歴代
住職、檀信
徒の亡き
霊のため
の法要で
あり、ねん
ごろに祈
り、祖先に

秋の彼岸会での読経風景



秋の彼岸会での読経風景

感謝、子孫
の安らかな
暮らしを希
う今日から
の一週間で
ある。

例によつ

て須弥壇の
東側(東序)
には金屏風…「清興の会」の備
えだ。さらに、高い桁につるされ
た「しろくろ演芸会」の横断紙？
が興味をそそる。



秋の彼岸会を終了後の余興

法要が終わり、お待ちかね
の「清興の会」。最初の登場は投
げ銭ライブでおなじみ…自ら
ちよつと下手！と名乗る大村巧
さん。各種の楽器を操りながら
物語る。続いては、笑顔が素敵な
女性マジシャン…スマイルのん
子さん。共にお客さまに話しか
け、にぎやかに笑いを誘い、場を
盛り上げられた。さて、来年はど
んな清興の会になるのかな？
*清興の会…日頃のお疲れをい
やす、お楽しみ会です。

「案内いたします」

●二月十一日(祭) 初午大祭

九時半より十五時半まで、ご
家族皆様さんでお楽しみください。

●三月十七日(火) 春のお彼岸会

十三時半 法要が始まります。
お楽しみのお話もあります。